

第 12 回 12/14/2019 「ビジネスに関わる哲学とリーダー：グローバル化の波と日本の中小企業経営、その歩みー人生とビジネスチャンスのつかみ方ー」

講師 金坂 良一 先生

金坂良一先生の少年時代の話聞いていてたいそう辛く感じられました。でもそれが将来の下敷きともなっていると見ていると素晴らしいと称えられている人は辛い経験の一つや二つ抱えているのだろうと考えます。対偶をあげれば、人生に困難がない人は大したことない者であると言え得ます。その差は自分を改善していく機会を掴めた数にあって、そう考えると艱難辛苦も立派な「チャンス」と捉えられるのだと思います。

人生設計についてはあまり考えた事はありませんが、今回考える時間を与えられてわかった事があります。それまでは人生設計なんて私にとってはト易と同義でした。15 分与えられても何も書く事はありませんでした。ですが、よくよく考えてみると何も計画通りにやってみろというノルマでなく、自分のしたい方向性をはっきりさせるためのゴールという捉え方がある事に気づきました。自分が何か成し遂げたいと思う時、そちらの方がマシなことに気付きました。結局白紙のままでしたが、十分に収穫はあったと信じます。

感謝の心が大事。私の中に最近、人にもものすごく感謝する出来事があったので、すごく原動力になった。いい経験できたなって、振り返りながら聞いてた。私はまだ就職についてなんのアクションもしていないけど、創立者で大学選んだのなら、経営者で選んでもいいのかなと思った。しかし、企業のホームページを見ると、どこの企業も立派なこと書いてあるので、難しいなと思った。いつか私もどこかの会社で仕事をする。最初からうまくいくことばかりじゃない。それでも、心を込めて志事できる日々があれば、それはすごく幸せなことだと思う。

最後の先生の動画は涙腺を刺激しにきてた。カネパッケージの紹介動画は長回しで、アクションを何回も練習したんだろうなあと感じた。

今日はカネカンパニー社長の金坂さんにお話を聞きました。梱包の会社を経営されていて、お話を聞いていてもたくさんタメになる話を聞かせていただきました。自分の人生の生い立ちや、パッケージに関することなどです。中でも、経営戦略の話が僕は印象深かったです。これから、敵が少なく、使う人や企業が多い分野のことに挑戦する方が、敵が多いところに攻め入るよりも、戦略的に攻めやすいと言っていました。本当にその通りだと思いますし、自分がこれから就職する会社でもこの考え方を使って、自分なりに生かしていきたいと感じました。チャンスを勝ち取るか見逃すかは自分次第ということも改めて学べたので、今後の自分の考えや生き方に取り込んで自分のものにしていきます。

感動と言うものが、エンターテインメントだけでなく、生きがい、仕事という面でも重要である事が分かつ

た。授業自体も、社長本人による、会社紹介のような側面もあり、所々に映像が入っていた為、常にはっきりと聞く事ができた。また、映像でも、「小さな手に、そっと背中を押された」など、心に残る言葉もらう事が出来た。自分自身も映画見て泣くことは、良くあるが、忙しさの中で最近は味わえていなかった。ので、久しぶりにお気に入りの感動映画で涙しようと決めた。授業の中では、人生を送る上での、教訓のようなものも教えて頂き、口にしたことは、80%は現実になると言うお言葉も、自身の未来を考え、言葉にする大切さを、感じた。これからも、「感動」を大切に生きていこうと思った。

金坂さんは幼い頃からたくさんの苦勞をしてきた方で、苦しみや悲しみを乗り越えてこれまでたくさんのことを経験してきたんだなと思いました。また、小さい時の経験が、金坂さんの20代、30代を支えてくれたんだなと思いました。感謝の気持ちを大切にされていて、また、自分の会社の社員を大切にされていてとても素敵だなと思いました。

金坂さんの経営持論が「常に限界に挑戦し続け、感謝と痛みの分かる『感動経営』」ということにとっても魅力を感じました。金坂さんの人柄の良さが滲み出ていました。金坂さんは小さい頃から海外に行きたいと思っていて、大人になってその夢が叶ったと言っていて、自分も海外で働く人になりたいので、これからも強い意志を持ってチャンスが訪れて、そのチャンスを掴めるよう小さなことに気づき、感謝の気持ちを忘れない感謝と痛みの分かる人間に成長していきたいと思いました。

今回、このような貴重なお話を聞けてとても幸せです。

先生、金坂さんを授業に呼んでくださってありがとうございました。

また、金坂さんの貴重なお時間を私たち東洋大学生のためにありがとうございました。

人生にとっても貴重な授業になりました。

ありがとうございました。"

本日の講義は株式会社カネパッケージの社長の金坂様の講義だった。カネパッケージは、『上空200メートルから落下しても中の卵が割れない包装材を開発』と言ったように、従来の技術者達が挑戦したことのない技術に挑む、クリエイティブな企業である。私は今回の講義、企業から学んだ事が2点ある。第一に新しい挑戦をする意欲。第二に高みを目指す向上心である。新しい挑戦をする意欲とは、仕事に従事するなかで言われた事だけをやるのではなく、自分で日々考え、仕事を作り出すことが大切だと思った。高みを目指す向上心とは、仕事に対して心を込めて行い、全力を出す事が大切だと学んだ。来年から就職活動が始まるのでこれらの事を意識して取り組むようにしたい。

将来の人生設計を書いたのはとても良かった。自分は40歳までしか書けず、50歳なら70歳のところは白紙になってしまった。30歳から先のビジョンが見えない。これは確かに今の自分が悩んでいるところである。将来の不確定性に期待を投げてしまっていて、考えないようにしたいという気持ちもあるのだが...とはいえ、何も計画なしに突っ込んでしまうのもどうかなと思う。そこで1つの考えを思いついた。私は帝国を建設する。自分を皇帝とし、考え方や価値観を以て他人を征服するのである。といっても無理矢理服

従されるわけではなく、相手が自らこうなりたいと希望するほどの影響力を持つことが重要だ。そのためには他人にないような経験、他人が思いつかないようなアイデアが必要で、具体的には何とも言えないが、なんだか摂るべき方向性がおぼろげに見えてきた気がする。

金坂さんの幼少期の話聞いた際、そんな辛い経験をした人にはとても見えず、とても驚いた。幼少期の経験があったからこそ今の自分があると話していた通り、努力を続け今に至ることがわかった。カネパッケージで取り組んでいる、社会貢献活動が環境に良いこと、現地の人へのちょっとした恩返しになっていることが良いと思った。一度だけやることは簡単だが、何年も続けていることはとてもすごいと思った。これから本格的に就職活動が始まるが、仕事を志事だと思える人になりたいと思う。仕事の字にある通り、仕える事だがこのイメージのままずっと続けていくと自然と重荷になっていくのではないかと考える。現在は高齢化社会であるため、将来の人生設計を自分なりに持つことが大事だと知った。

第12回の講師として金坂良一先生にお越しいただきました。先生の講義は本当に学ばなければならない所が多く、二時間を通して刺激的な講義でした。金坂先生の幼少期がまるで小説のようで本当に小さい頃からこんなに苦労している人がいたのかと思い知らされました。同時に小さい頃から今に至るまで大した問題もなく育ったことは幸福なことなんだと感じました。カネパッケージの運営についても驚いたことがありました。一つが「驚き」と「感謝」を常に感じ、提供し続けていくことです。私は大多数の企業が掲げてるモットーが形式めいたものに過ぎないのではないかと感じていましたが、それを実際に行動に移してる企業もいるという事実が私の企業に対する考えを変えてくれました。「仕事」とは「志事」である、ただ仕える事ではなく、高い志をもって心を込める事である、今回の講義で私を救ってくれた二つの言葉の内の一つです。二つ目が腕と脚が生まれつき無い男性の話です。男性の話、もとい経験談は思わず泣いてしまいそうなほど尊敬してしまい、私の心にあった不安がちっぽけなものに思いました。金坂先生は幼少期に苦労したからこそ尊敬できる人格者になり、皆を引っ張るリーダーになったんだと確信しました。リーダーを学ぶならまず人格者として成長しなければならないと思いました。

今回の講義を受けるまで「カネパッケージ」の名を聞いたことがなかった。だが、話を聞いて驚いたことは顧客である企業は誰でも聞いたことのある大手だということだ。カネパッケージ自体は一般の私たちには馴染みのない企業だが、梱包業界の界限の方々にとっては大切な製品を守ってくれる企業なのだとわかった。そして、そのような重要な存在になったのは社長である金坂さんの力だろう。金坂社長は講義で、新入社員に卵が割れないパッケージを作るように課題を出したお話をして下さった。金坂さんはその課題に多額の資金を費やしたという。たかが新入社員への課題と捉えるのではなく、彼らの技術に見合った資金を投資してくれる姿は社員にとってやりがいにつながるだろう。このような挑戦する機会を部下に提供できるのは、金坂さん自身が幼少期から努力して結果を出してきた経験に基づいていると感じた。そして、この意欲的に「挑戦」する力こそ金坂さんのリーダーシップと言えるのではないだろうか。

夢というものが大きな原動力になるのだなと感じました。歳を重ねるにつれ、夢が具体的に形になっていき、夢の叶え方がわかるからこそ、遠く感じてしまうことがあると思います。しかし、講義を受けて、なにを尻込みしているんだと自分に喝を入れることができました。人を先導するリーダーとはこのような野望を持つべきなのではないかと思いました。そのためには、その野望を周りの人にうまく伝え、巻き込む力が必要であると感じました。

また、チャンスの話を聞いた際、自分は知らず知らずのうちにチャンスを逃しているのではないかと思います。チャンスはその前段階に努力があってこそだとは思いますが、アンテナを張り、チャンスを掴んだ先を見据えることで、夢に近づくことができると理解することができました。

金坂社長のお話は大変な体験をされてこられたからでしょうか、とても心に入ってくるメッセージが沢山ありました。金坂社長も好奇心旺盛とプロフィールに書かれていましたが、私もそういうところがありチャンスの掴み方という点では、チャンスを逃さないためにいつも何をしたいのか私も考えるようにしています。夢を持ち続ける事の大切さ教えていただきました。心→ひとを作る→能力と知恵を培う→技術と利益を生み出す、という企業力の定義が素晴らしいと思います。仕事ではなく志事にしていくこと、高い志を持ち、心を込めて行う事というところに共感いたしました。ご苦労されてきた金坂社長たがからこそ一つの言葉だと思います。世間では、いかに仕事を効率よく進めるかに重きを置き、人として大切な事を忘れていていると思います。取り組んでいきたいヒントが沢山ありました。

今回の金坂良一さんの話と貰った本を読んだ感想は、リーダーに求められるのは、何か特別なスキルでは無く、当たり前のことをしっかりと積み重ねることが大切と言うことです。特に金坂さんは人間としての思いやる心であったり、しっかりと人とコミュニケーションを取るであったり、何事にも挑戦すると言った様な小学生で教わるようなことを馬鹿にせずしっかりとやってきたからこそ、現在のような人にもお金にも恵まれた人物になったのだと感じました。私もこれからの日々の生活では当たり前のことをしっかりと積み重ね、自分だけの利益を追求するのでは無く、自分に関わってくれる全ての人々と自分自身が関わって良かったと感じながら助け合う事が出来るように導ける様な人物に成長していきたいです。